

UNIVERSIADE GWANGJU 2015 REPORT 9

(7/7)

7月7日(火)

6:50 選手村発のバスで忠州ボートコースに向け出発

7:00 忠州ボートコース到着、LM2x朝練開始

8:30 忠州ボートコースから選手村に帰村

13:30 選手村発のバスで忠州ボートコースに向け出発

13:40 忠州ボートコース到着

13:45 選手計量

14:30 光州より鈴木大地団長がお見えになり、昨日金メダルを獲得したLW2xとLM4-クルーの
団長表彰がグランドスタンドで行われた。



鈴木大地団長から表彰を受けたLW2xクルー。左から大石選手(株式会社中部プラントサービス)、
富田選手(明治大学)、鈴木大地団長



鈴木大地団長から表彰を受けたLM4-クルー。左から佐藤選手、志賀選手、林選手、荒木選手(い
ずれも日本大学)、鈴木大地団長



出艇前の最後のミーティング。左から梶田コーチ、
長田選手(早稲田大学)、大塚選手(日本大学)



グランドスタンドも満員。国ごとに集まり独特の応
援をする国もある。

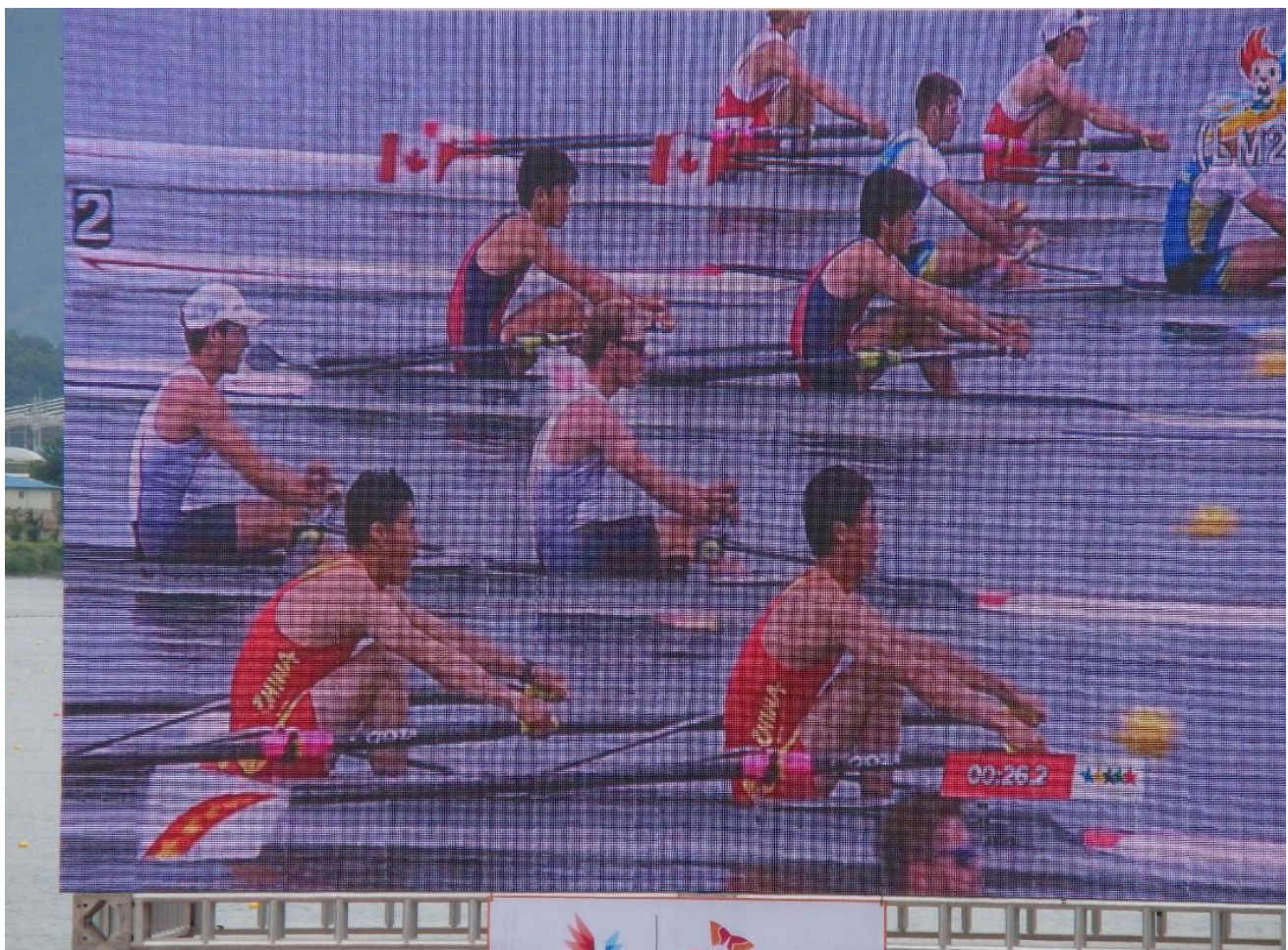
Aファイナルが続く興奮の中、ほぼ定刻通りの発艇。スタートは横一線。300m付近から中国がまず仕掛け一気に1艇身近くリードを広げはじめた。日本はドイツと並ぶようにして中国を追う。500mの通過は1位中国、0.77秒差で2位ドイツ、日本はトップから1.05秒差の3位で通過。続いて4位ウクライナ、5位カナダ、6位イタリアと続く。

600m過ぎから日本はドイツと並ぶようにして中国との差を詰めようとするが、中国が必死に逃げ続ける。中々トップには出してもらえないが、捉えた感触は十分に出てきた。1000mの通過は、1位中国、2位が1.43秒差で日本、3位がトップ中国から1.90秒差のドイツ。ここでイタリアがトップ中国と2.48秒差の4位に浮上してきた。

勝負の第3クォーター、ここで日本がギアを切り替える。1100m地点でドイツとの争いから徐々に抜けだし、1位中国との差を一気に詰めはじめた。1200mでついに中国に並び、1250mでは完全にトップに躍り出た。ここから日本がさらに躍動しはじめ1500mでは2位イタリアに1.27秒差、3位ウクライナには1.96秒差をつけ一位で通過。完全にレースの主役となり、大型ビジョンを見ていたスタンドの観客からは(昨日に続き)日本もここまで強ければあきらめるしかないといった雰囲気になってきた。

ここから2位イタリア、3位ウクライナが猛烈な追い上げをはじめた。しかし日本も対応している。1750m地点もトップで通過。さらに猛烈なラストスパート合戦となる。隣の2レーンウクライナの猛追をかわそうと必死にスパートを入れる日本。スタンドは大興奮。各国の応援が飛び交う中、最高のスパートを見せたのは6レーンイタリアだった。ラスト100mで日本とウクライナをかわすとそのままトップでゴールに飛び込んだ。続いて日本とウクライナが並ぶようにしてゴールするが、2位ウクライナ、3位日本となった。

レース後がっくりとうなだれる日本の2選手だったが、前日の2種目金メダルという結果、また各国が「これ以上日本に勝たせてたまるか」という凄まじいプレッシャーがかかる中で、堂々と主役を演じメダルを獲得したレースは見るものに大きな感動を与え、またメダルラッシュに沸いた今大会を締めくくるにふさわしいレースになった。



大型ビジョンに映し出されるスタート後の主導権争いの様子。

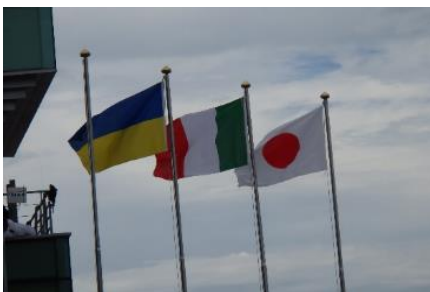


ラスト100m、ほぼ横一線。手前からイタリア、日本、ウクライナ。

Victory Ceremonies

LM2

B 大塚圭宏選手(日本大学)
S 長田敦選手(早稲田大学)



選手からひとこと

LM2x

B 長田敦選手(早稲田大学)

自分自身、世界ジュニア選手権以来の世界大会出場となりました。世界ジュニア選手権の際には話にならないくらい水が空いたレースになってしまいましたが、今大会は決勝まで進めてそこからメダル争いまでできたのは、この4年間自分が成長できたのだなと実感できました。榊田コーチをはじめとするスタッフの皆さんにお世話になってのこの結果でした。本当にありがとうございます。U23世界選手権では結果を残して感謝の気持ちをレースで伝えたいと思っております。

S 大塚圭宏選手(日本大学)

決勝レースはこれまでの競技人生の中で一番刺激的且つ重みのあるレースでした。金メダルを持ち帰ることができなくて申し訳ありません。周囲の方々の支えがなければ取れなかったメダルなので、今大会で得たことをこれから先につなげて、周囲の想いにこたえて行きたいと思っております。

今大会の審判長は日本の千田隆夫国際委員長でした。こちらにも非常に誇らしいことです。チームマネージャーミーティングで前列に座るお姿を拝見し、誇らしい想いになりました。その千田国際委員長より、予選のレースが終わった夜に次のようなメッセージをいただきました。

「予選の全レースを判定塔の審判長席から見ていましたが、予選に出漕した3つの日本クルーがすべてダントツのトップでゴールし、胸のすく思いをしました。

次のラウンドの組み合わせに審判長としてサインするときに、JPNが真ん中に書いてある紙が3枚もあったわけですが、こんなことは20年以上国際審判をやってきて初めての経験です。本当に今日は素晴らしい日でした。

どのクルーも明日のFinal Aでは100%の力を出し切ってください。」

このメッセージを読んだ時、熱い想いが胸にこみ上げてきたことはいまでもありません。ボートが好きでボート競技にかかわり続けようと決意され、大会の運営に欠かせない審判員という立場を選ばれた方は大勢いらっしゃると思います。でもボートは好きだし選手にも興味があるにもかかわらず、審判員という立場から必要以上に選手と懇意になることも控えられている審判員の方々は少ないと思います。しかしこのような想いをもって見てくださっていることを考えると、同じボート界の一員として感謝の想いでいっぱいです。どうか今後ともよろしくお願い申し上げます。



チームマネージャーミーティングに審判長として出席されていた千田国際委員長。

LM2xの決勝レースをもって、第28回ユニバーシアード競技大会ボート競技のレースは終了いたしました。ここまでお知らせしましたとおり、世界大会では日本ボート界史上初となる複数種目及び女子種目、またオリンピック種目での優勝、出漕全クルーがメダル獲得という素晴らしい成果を残すことができました。

これも「日本のボートが世界で勝ってほしい」という熱い想いを持った方々が、ここまで継承してくださった道のりのおかげだと思っております。本当にありがとうございます。

今大会を総括いたしますと、「未来ある若者たちが世界で勝つことの素晴らしさ、また難しさを感じるこ

とができた大会」だったのではと思います。
LM2xの決勝で日本がドイツをかわしてトップに出たときに、ドイツのコーチが
『You are great team!』

と私に言って笑って去って行きました。

そのレースはゴール直前僅差でかわされ惜しくも銅メダルにはなりましたが、これまでのLW2x、LM4-、そしてLM2xのレースがいかに素晴らしかったかを物語る言葉だったのではと思っております。

今回大活躍した選手たちの目は次のターゲットに向いております。どうかこれからも日本ボート界が一丸となって世界と戦えるよう応援よろしくお願い致します。

最後に今回の遠征にご協力いただいた全ての皆さまに感謝申し上げます。ありがとうございました。

「ご声援ありがとうございました」

～第28回ユニバーシアード競技大会ボート競技日本代表選手団一同～



後列左より、崎山(チームオフィシャル)、梶田(コーチ)、今次(技術スタッフ)、下屋(トレーナー)、中上(チームリーダー)
前列左より、長田(LM2x)、大塚(LM2x)、林(LM4-)、富田(LW2x)、大石(LW2x)、荒木(LM4-)、志賀(LM4-)、佐藤(LM4-)、キムナヨン(現地ボランティアサポートスタッフ)